

關西大學 中國文學會紀要 第24號（平成15年3月）抜刷

近代欧米人の中国語語法研究と  
品詞名称の変遷初探

内 田 慶 市

# 近代欧米人の中国語語法研究と 品詞名称の変遷初探

内 田 慶 市

これまでも何度か述べてきたことではあるが、中国人の手になる体系的な中国語語法研究は『馬氏文通』(1989)まで待たねばならなかった。しかし、近代の欧米人はそれよりずっと早くから中国語語法について研究を行ってきていた。たとえば、内田2001でも示したように、以下の様な専門書が彼らによって著されている。

- (1) Anonymous ; *Arte de la lingua Chio Chiu* (稿本), 1620
- (2) Martino Martini (衛匡國) ; *Grammatica Sinica* (稿本), 1653
- (3) Francisco Varo (萬濟國) ; *Arte de la lengua Mandarina* (Canton), 1703
- (4) T. S. Bayer ; *Museum Sinicum*, 1730
- (5) Prémare (馬若瑟) ; *Notitia Linguae Sinicae*, 1724 (稿本), 1831 at Malaccae by Morrison
- (6) Fourmont ; *Linguae Sinarrum Mandarinicae hieroglyphicae Grammatica duplex*, 1742
- (7) Joshua Marshman ; *Clavis Sinica (Elements of Chinese Grammar)* [中國言法], 1814
- (8) Robert Morrison (馬禮遜) ; *A Grammar of the Chinese Language* [通用漢言之法], 1815

- (9) Abel Remusat ; *Elemens de la Grammaire Chinoise* [漢文啓蒙], 1822
- (10) J. A. Goncalves (公神甫) ; *Arte China* [漢字文法], 1829
- (11) Gützlaff (郭實獵) ; *Notices on Chinese Grammar*, 1842<sup>1)</sup>
- (12) Joseph Edkins (艾約瑟) ; *A Grammar of the Chinese Colloquial Language, commonly called the Mandarin Dialect*, 1857
- (13) W. Lobscheid (羅存德) ; *Grammar of the Chinese Language*, 1864
- (14) T. P. Crawford (高第丕) ; *Mandarin Grammar* [文學書官話], 1869
- (15) T. F. Wade (威妥瑪) ; *語言自邇集*, 1867
- (16) J. S. McIlvaine ; *Grammatical Studies in the Colloquial Language of Northern China*, 1880
- (17) C. W. Mateer (狄考文) ; *官話類編*, 1892

これらの書物に共通して見られるのは、彼らが一樣に中国の伝統的な「虚実論」をふまえて中国語及び中国語語法を論じていることである。たとえば、以下のように語を分類している。

Prémare	虚字 實字 (活字=動詞, 死字=名詞, 死實字=名詞)
Morrison	生字=動字 (動詞) 死字=靜字 (名詞) 虚字
Edkins	虚字 (活字 死字) 實字
Marshman	particle substantive

ところで、上記の彼らの成果は大體以下のように大きく二つの観点から分けることが出来る。

- (a) Morrison 以前と以降  
 (b) カトリックとプロテスタント

(c) ラテン語文法と英語文法

(d) 8品詞と9品詞

つまり、Morrison 以前はカトリック宣教師を中心とし、Morrison 以降はプロテスタントを中心とする。Morrison 以前はラテン語文法を元にして中国語語法を記述するのに対して、Morrison 以降は英語文法を元にする。ラテン語文法は8品詞であるのに対して、英語文法は9品詞である。というおおまかな違いである。もちろん、Morrison 以降でも、『馬氏文通』が依拠したものはラテン語文法（『拉丁詞芸』—『拉丁文通』）であった<sup>2)</sup>。

なお、上記の著作において、『文學書官話』以外は全てラテン語や英語、フランス語での記述である（例文は中国語）。

彼らは自分たちの言語（ラテン語や英語等）の文法に基づいて中国語を記述したが、一方で中国語固有の特徴にも注目していた。「虚実論」をその基盤においてこともその現われであるし、とりわけ中国語の「量詞」と「助詞」に関しては多くのページを割いて説明している。

「量詞」に関しては、以下のような記述が見られる。

Before it is shewn how they form the number, case, and gender of the Noun, it is proper to notice a class of words called Numerals, which generally precede or follow the Noun. (Morrison1815, 37p)

Where in English we use the indefinite article, the Chinese say—yih, one, followed by a numeral; 我看見一個老虎吃羊. Where we speak of this or that tiger, two or three tigers, the Chinese use not only a pronoun or number, but also a numeral particle following it. (Edkins1857, 121p)

このほか、Lobscheid 1864 では、「量詞」を「classifier」と呼び、「文學書官話」では「数詞」と「量詞」を明確に区別し、それぞれ「數目言」と「分品言 (classifier)」と呼んでいる。

さて、現在の品詞名は黎錦熙の『新著國語文法』(1924)以降確定したと言われているが、それらが、どのようにして作られ、定着してきたのかについては、これまでほとんど論じられることがなかったように思われる。ここでは、試みに黎錦熙以前の品詞名称の変遷について若干述べておくこととする。

調査の対象としたのは以下のものである。

Morrison ; *A Grammar of the Chinese Language*, 1815

Williams ; 英華韻府歷階, 1844

Medhurst ; *English and Chinese Dictionary*, 1847-48

Lobscheid ; *English and Chinese Dictionary*, 1866

Crawford ; 文學書官話, 1869

曹驥 ; 英字入門, 1874

鄺其照 ; 華英字典集成, 1875, 1887, 1902

汪芝房 ; 英文學隅, 1879

Matter ; 官話類編, 1892

Tam Tat Hin ; 華英字典彙集, 1897

Mok Man Cheung ; 達辭, 1898

商務印書館系統の英華字典各種

調査の結果を表1-3に示すが、これらの表からほぼ次のようなことが言えるだろう。

- (1) 「馬氏文通」の品詞名は基本的にはそれまでの名称を受け継いでいる。特に、Lobscheid と Mateer の影響が見られる。
- (2) 品詞名の変遷からも、19世紀の英華字典の継承関係がうかがえる。  
 たとえば、鄺其照は主に Medhurst を継承しているが、Morrison (interjection の訳語) や Williams (noun の訳語) なども参考にしている。また、後期の鄺其照の字典はさらに Lobscheid (形容字、勢字など) のものも採り入れている。
- (3) 商務印書館系統の初期のものは、鄺其照に依拠しているが、また Lobscheid なども参考にしていた。
- (4) 「綜合英漢大辭典」の日本語の影響はやはりここでも証明される。
- (5) Mateer の語彙の他の字典への影響力も無視できない。
- (6) 「副詞」の名称はかなり不安定であり、たとえば、Lobscheid や鄺其照では「勢字」「形容字」と呼び、いわゆる「形容詞」と同じように扱われている。その理由は恐らくは、同じく「形容=修飾」の機能をもつところからくるものであろう。

ところで、(4)に「綜合英漢大辭典」の日本語の影響について触れたが、特に「副詞」の名称については、今回調査したものでは唯一この辞典にだけ収められている。日本でいつ頃から「副詞」という名称が使われたか現段階では調査していないが、たとえば、Williams の「英華韻府歷階」の翻刻本である「英華字彙」(日本柳澤信大校正訓點，明治2年=1869)の「凡例」には次のようにある。

英文字母惟二十六有り，相連子テ而シテ字ヲ成ス，字類分テ八門ト爲ス，一曰ク冠字，二曰ク死字，三曰ク形容字，四曰ク活字，五曰ク副字，六曰ク前置字，七曰ク接續字，八曰ク間投字……

また、『文學書官話』の翻刻本の一つである『支那文典』（大槻文彦解、明治10年=1877）の第九章「論加重言」、第十二章「論隨從言」、第十六章「論問語言」には「副詞ノ一部」「疑問副詞」といった注が加えられている。

#### 論加重言 副詞ノ一部

洋語ニイフ副詞中ノ一部ニシテ特ニ形容言、數目言、隨從言ニノミ屬スル者ナリ、下卷ノ隨從言、示處言ノ部ヲ併セ見ルベシ（乾、24裏）

#### 論隨從言 副詞ノ一部

此言ハ靠托言ニノミ隨從シテ其ノ意味ヲ旁ヨリ、調ヘ理ムル者ニシテ、洋語ニイフ副詞ノ一部ノ動詞ニノミ副フモノナリ（坤、9裏）

#### 論問語言 疑問副詞（坤、16表）

このように日本では中国よりもかなり早くから「副字」「副詞」といった言葉が使われていることがわかる。してみると、中国における品詞名も日本語からの逆輸入として定着したということになるのかも知れないが、断言は避けておく。

いずれにせよ、中国語における品詞名の変遷については、『馬氏文通』以降に現われた中国人の手になる文法書を丹念に見ていく必要があるのであるが、それは今後の課題として、今回はその手始めという段階である。

<付記> 本小論は平成14年度関西大学学部共同研究の成果の一部である。

#### 注

- 1) 内田2001では、John A. F. Meadows の同名の書物が挙げられている。その現物を見ていないので断言はできないが、鳥井1995 (25-39p) の記載から判断して恐らくは同一の書物であると思われる。ページ数、内容等は Gützlaf のも

のと完全に一致する。相違点は、鳥井1995によってタイトルにあるとされる「John. A. F. Meadows」の有無だけである。私の見た Gützlaf 版も Gützlaf の名は冠されていないのではあるが、タイトルにある「by Philo-Sinensis」の「Philo-Sinensis」は Gützlaf の別名であることは、Williams 1876 (47p) や Cordier1906-1907 (1670p) からも明らかである。

また、同書は Medhurst の著作として収録している書目もある (Lust 1987: 236p) が、そのマイクロフィルムを見ると、発行年、タイトル、ページ数等々全て Gützlaf のものと同じである。

2) 「馬氏文通」と「拉丁詞芸」「拉丁文通」の関係については何2000に詳しい。

#### <参 考 文 献>

- 鳥井克之「中国文法学説史」関西大学出版部, 1995  
何群雄「中国語文法学事始」三元社, 2000  
内田慶市「近代における東西言語文化接触の研究」関西大学出版部, 2001  
Henri Cordier. Bibliotheca Sinica (Vol. III). 1906-1907  
S. W. Williams. Catalogue of publications by protestant missionaries in China, 1867  
John Lust. Western books on China published up to 1850, 1987



(表 1) 《馬氏文通》以前的詞類名稱的演變

Morrison(1815)	現行	Williams(1844)	Medhurst(1847-48)	Lobacheid(1866)	《文學書官錄》 (1869)	《漢字入門》 (1874)	詹其鳳(1875)
noun	名詞	實字, 死字	物名	名, 名子	名類	實字	實字, 人物地方之 名
adjective	形容詞			勢字	形容言	加實字	
verb (生字, 動字, 活字)	動詞	活字, 生字	活字, 生字, 動字	活字, 動字, 生字	靠託言	動作字	活字, 生字, 動字
pronoun	代詞			替名字	替名	稱呼字	
adverb	副詞	輔助詞		勢字	隨說言	加動作字	形容字
preposition	介詞			定論字	示成言	位置字	
conjunction	連詞			懸字, 連字	接連言	相連字	
particle (虛字, 虛語, 虛詞, 虛語, 虛字, 轉語, 虛字, 改得虛字) *	助詞	虛字	虛字 (開語辭, 起語虛字, 接語辭, 轉語辭) *	不實字 (助語之辭, 轉語之辭, 接語辭, 開語辭)			虛字
interjection (嘆辭, 驚聲)	嘆詞			情字	語助言	呼聲字	得偶聲, 嘆美詞
Grammar	文法, 語法	文法, 文法小引	讀書作文之法, 通用漢言法 (Chinese Grammar)	文法書, 通用言語, 文法 (Grammatical rules)	文學	學語之法	講解作文法之書

(表 2) 《馬氏文通》以前的詞類名稱的演變

《英文學概》 (1879)	《英文學概》 (1887)	Masener(1892)	《字彙彙纂》(1897)	《述辭》(1898)	馬氏文通(1898)	《新學語彙》 (1902)	《商務印書館華英字典》 (1902)
轉字	實字(人物地方名目)	名詞、名物、名物字、名目字	物名	實字(人物地方名目)	名字	實字(人物地方名目)	實字(人物地方名目)
聲轉字		狀字、區別字、形容字	形容之別、英語文法書用以別形容之字眼，如高低大小其總實字，英語叫做Adjective.	形容字	轉字	形聲字、勢字	形聲字、勢字
動字	活字、生動字	活字、云謂字	活字、處字	活字、動字、生字	動字	活字、生動字	活字、動字、生字
代轉字		代名字、稱代字、稱代、代名目字	代實字		代字		
聲動字	形容字	顯狀字、電活字	勢字	情形字	狀字	象形聲字、趨形聲字	象形聲字、趨形聲字
聯合字		顯明字、介字、介係	象論 (a word put before another to express relation)	定論字	介字	其係字	其係字
承轉字	協連字、承上居下動字	連合字、連釘字	連字、阻字、相連字		連字	協連字、承上居下的字	協連字、承上居下的字
	虛字(替語辭、接語辭、助語辭)		平虛實字	虛字(替語辭、接語辭、助語辭)	助字	虛字(替語辭、接語辭、助語辭)	虛字(替語辭、接語辭、助語辭)
轉語字	傳譯聲、噴或則	口氣字	噴譯聲、噴或則	傳譯聲、噴或則	噴字	傳譯聲、噴或則	傳譯聲、噴或則
文法	講解作文法之書	讀書作文之法、通用講解法(Chinese Grammar)	文法書	講解作文法之書、The use of Grammar is to teach us to speak and write correctly 文法一書乃教人說話且同字之正法		講解作文法之書	講解作文法之書

(表3) 商務書館系列

Morrison(1915)	(商務書館華英字典) (1902)	(商務書館華英字典) (1902)	(商務書館華英字典) (1902)	(商務書館華英字典) (1904)	(英華大辭典) (1908)	(增廣英華新字典) (1914)	(綜合英漢大辭典) (1927)	(新著國語文法) (1924)
noun	實字 (人物地方名目)	名, 名字, 實字	名, 名字, 實字	名詞, 名字, 名物字	名詞, 名字, 名物字	名字, 名物字	名詞 (無形名詞, 抽象名詞, 集合名詞, 普通名詞, 物官名詞, 固有名詞)	名詞
adjective	形容字, 勢字	勢字, 形容字	勢字, 形容字	勢字, 形容字, 區別字	勢字, 形容字, 區別字	形容字, 區別字	形容詞, 區別字	形容詞
verb	活字, 動字, 生字	活字, 動字, 生字	活字, 動字, 生字	動字, 活字, 動詞, 云, 環字	動字, 活字, 動詞, 云, 環字	動字, 云環字	動詞 (動動詞, 使役動詞, 化動詞, 自動詞)	動詞
pronoun	代名字	代名字	代名字	稱代字, 代名字	稱代字, 代名字	代名字, 稱代字	代名詞 (人稱代名詞, 動物代名詞, 指示代名詞)	代名詞
adverb	變形容字, 越形字	勢字, 語助詞	狀字, 語助詞	狀字, 語助詞	狀字, 語助詞	狀字, 助狀字	副詞, 助狀字	副詞
preposition	介字	介字, 地位字, 前置詞	地位字, 前置詞	介字, 介系字, 充名字, 前置詞	介字, 介系字, 充名字, 前置詞	介系字, 前置詞	介詞	介詞
conjunction	語連字, 承上係下助字	語連字, 適合之字	語連字, 適合之字	適合之字	適合之字	適合字, 適合字	接續詞, 聯合字	連詞
particle	虛字 (聲語辭, 接語辭, 動語辭)	不覺之字, 虛字 (動語之辭, 轉語之辭, 接語辭, 動語辭, 起語辭)	不覺之字, 虛字 (動語之辭, 轉語之辭, 接語辭, 動語辭, 起語辭)	不覺語, 充語 (動語辭, 轉語辭, 接語辭, 起語辭)	不覺語, 充語 (動語辭, 轉語辭, 接語辭, 起語辭)	不覺之字	無變化語, 不變語 (如有置詞, 接續詞, 感嘆詞等)	
interjection	語嘆聲, 嘆美詞	情呼字, 感嘆聲, 嘆美詞	情呼字, 感嘆聲, 嘆美詞	驚呼字	驚呼字	驚呼字	感嘆詞, 問設詞	嘆詞
Grammar	講解作文法之書	文法書	文法書	文法, 文體, 言語點講, 文字之通例, 文法, 文法, 文章起點, 文法	文法, 文體, 言語點講, 文字之通例, 文法, 文法, 文章起點, 文法	文法書, 文法	文法, 文法, 論文法之書	文法